

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

財務会計

問題 1

次の各取引の仕訳を示しなさい。(15 点)

- (1) 売買目的で当期中に2回にわたって購入していたA社株式8,000株のうち4,000株を1株当たり3,000円で売却し、代金は月末に受け取ることとした。なお、同社株式は第1回目に6,000株を1株当たり2,800円、第2回目に2,000株を1株当たり2,600円でそれぞれ購入したもので、株式の払出単価の計算は平均原価法によっている。
- (2) B社は、×1年6月25日の定時株主総会において繰越利益剰余金を次のとおり、配当および処分することが承認された。
利益準備金：会社法の定める金額 別途積立金：300,000円 株主配当金：1株につき 95円
なお、×1年3月31日（決算日）現在の資本金、資本準備金、利益準備金の各勘定残高はそれぞれ12,000,000円、1,000,000円、500,000円であり、その後変動はなかった。また、発行済株式数は10,000株であった。
- (3) C社は、D社を吸収合併し、D社株式と引き換えにC社株式を発行し、交付した。合併直前のD社の諸資産は2,000,000円（時価）、諸負債は1,100,000円（時価）、交付したC社株式の時価は1,000,000円である。なお、増加する資本のうち2分の1を資本金とした。
- (4) 売掛金および買掛金には外貨建てのものが含まれている。決算日における為替相場は150円/ドルであり、換算替えを行う。
売掛金 500ドル 取引時の為替相場 145円/ドル、買掛金 600ドル 取引時の為替相場 147円/ドル
- (5) P社は×1年3月31日にS社の発行済株式数の70%を1,200,000円で取得し、支配を獲得した。支配獲得日におけるS社の資本は、資本金1,000,000円、利益剰余金は500,000円であった。支配獲得日において投資と資本の相殺消去を行った。

[解答欄]

(単位：円)

△	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

問題 2

次の〔資料1〕～〔資料3〕に基づいて、次ページの本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。(15点)

〔資料1〕決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

(単位:千円)

借方科目	本 店	支 店	貸方科目	本 店	支 店
現金預金	150,000	70,000	買掛金	159,000	157,575
売掛金	232,500	135,000	貸倒引当金	6,750	1,275
繰越商品	118,500	52,500	減価償却累計額	36,000	9,000
支店	143,800	—	本店	—	102,150
備品	120,000	45,000	資本金	300,000	—
仕入	682,500	415,500	利益剰余金	117,000	—
営業費	246,950	181,250	売上	1,075,500	629,250
	1,694,250	899,250		1,694,250	899,250

〔資料2〕未達事項

1. 支店は本店へ現金21,400円を送付したが、本店に未達である。
2. 支店は本店の売掛金27,000円を回収したが、支店に未達である。
3. 本店は支店の買掛金18,000円を支払ったが、支店に未達である。
4. 本店は支店の営業費29,250円を立替払いしたが、支店に未達である。

〔資料3〕期末修正事項

1. 期末商品棚卸高
 - (1) 本店 147,000円
 - (2) 支店 42,000円
2. 売掛金の期末残高に対して、本支店ともに5%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
3. 備品に対して、本支店ともに定率法(償却率25%)で減価償却を行う。
4. 営業費の前払分19,500円を繰延べる。

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

本支店合併損益計算書

(単位:千円)

I 売上高	()
II 売上原価	
1. 期首商品棚卸高	()
2. 当期商品仕入高	()
合 計	()
3. 期末商品棚卸高	()
売上総利益	()
III 販売費及び一般管理費	
1. 営業費	()
2. 貸倒引当金繰入	()
3. 減価償却費	()
当期純利益	()

本支店合併貸借対照表

(単位:千円)

現 金 預 金 ()	買 掛 金 ()
売 掛 金 ()	資 本 金 ()
貸 倒 引 当 金 ()	利 益 剰 余 金 ()
商 品 ()	
() ()	
備 品 ()	
減 価 償 却 累 計 額 ()	
	()

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

問題 3

リース取引を2つに分類し、それぞれの会計処理について説明しなさい。(10点)

〔解答欄〕

問題 4

連結貸借対照表の作成にあたり、親会社の子会社に対する投資とこれに対応する子会社の資本を相殺消去しなければならない理由を説明しなさい。(10 点)

〔解答欄〕

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

管 理 会 計

問題 5

KG 社は、単一工程単純総合原価計算によって製品製造原価の計算を行っており、月末仕掛品原価は先入先出法により計算している。次の〔資料〕に基づいて、月末仕掛品原価、当月完成品総合原価、および完成品製造単価を求めなさい。なお、正常減損はすべて工程の始点で発生したものであり、正常減損度外視法で計算する。(10 点)

〔資料〕

1. 生産データ

月初仕掛け品	400 個	(0.75)
当月投入量	800 個	
合 計	1,200 個	
正常減損	100 個	
月末仕掛け品	200 個	(0.5)
完成品	900 個	

2. 金額データ

月初仕掛け品原価	
直接材料費	32,000 円
加工費	36,000 円
当月製造費用	
直接材料費	56,000 円
加工費	84,000 円

- ・仕掛け品に付記している（ ）内の数値は加工進捗度である。
- ・材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答欄〕

	月末仕掛け品原価	当月完成品総合原価
直接材料費	円	円
加工費	円	円
合 計	円	円

完成品製造単価	@	円
---------	---	---

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

問題 6

当社では標準原価計算を行っている。次の〔資料〕に基づいて、パーシャル・プランによる仕掛品勘定を作成し、差異分析を行なさい。なお、能率差異は標準配賦率により計算すること。(10点)

〔資料〕

1. 標準原価カード

標準原価カード			
費目	標準消費量	標準価格	金額
標準直接材料費	5kg	× @400円	= 2,000円
標準直接労務費	標準直接作業時間 3時間	× @400円	= 1,200円
標準製造間接費	標準直接作業時間 3時間	× @600円	= 1,800円
		製品1個あたりの標準原価	<u>5,000円</u>

2. 生産データ

月初仕掛品	100個	(40%)
当月投入	800個	
合計	900個	
月末仕掛品	200個	(80%)
当月完成品	700個	

- 仕掛品に付記している()内の数値は加工進捗度である。
- 材料はすべて工程の始点で投入される。

3. 公式法変動予算

変動費率 @200円
月間固定費 1,200,000円
基準操業度(直接作業時間) 3,000時間

4. 実際原価データ

実際直接材料費 1,330,000円 (3,800kg)
実際直接労務費 1,100,000円 (2,500時間)
製造間接費実際発生額 1,800,000円

〔解答欄〕

仕掛品		(単位: 円)
月初仕掛品原価	()	完成品製造原価 ()
直接材料費	()	原価差異 ()
直接労務費	()	月末仕掛品原価 ()
製造間接費	()	()
	<hr/>	<hr/>
	<hr/>	<hr/>

(注) 金額の後の[]内には有利または不利と記入すること。

価格差異 () 円 []	数量差異 () 円 []
賃率差異 () 円 []	時間差異 () 円 []
予算差異 () 円 []	操業度差異 () 円 []
能率差異 () 円 []	

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
2025年度春学期入学試験
アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B方式(筆記試験型)入学試験
筆記試験問題

問題 7

次の(1)～(5)の記述のうち、下線部に当てはまる最も適切な語句を語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。(10点)

(1) 帳簿棚卸高と実地棚卸高の差を棚卸減耗という。棚卸減耗が正常な原因による場合、その棚卸減耗費は、_____で処理する。

語群 :	(A) 直接材料費	(B) 間接材料費	(C) 直接経費	(D) 間接経費
------	-----------	-----------	----------	----------

(2) 総合原価計算において、工程始点で正常減損が発生する場合、その正常減損費は_____に負担させる。

語群 :	(A) 完成品と月末仕掛品	(B) 完成品	(C) 月末仕掛品
------	---------------	---------	-----------

(3) 標準原価計算の製造間接費の差異分析において、_____は、作業効率の良否を判定するために使われる。

語群 :	(A) 予算差異	(B) 操業度差異	(C) 能率差異	(D) 数量差異
------	----------	-----------	----------	----------

(4) 複数の代替案の中から一つの案を選択する意思決定において、代替案間で発生額が変わらない原価のことを_____という。

語群 :	(A) 差額原価	(B) 機会原価	(C) 無関連原価	(D) 実際原価
------	----------	----------	-----------	----------

(5) 活動基準原価計算(ABC)では、各活動に対して、できる限り関連性が高い活動ドライバーを選択することが重要である。例えば、検査活動の原価に対して、下記の語群の中で最も関連性が高い活動ドライバーは_____である。

語群 :	(A) 検査回数	(B) 検査時間	(C) 検査員の人数
------	----------	----------	------------

[解答欄]

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	